

# はなぞの

令和2年度  
花園小学校だより  
7・8月号  
2020年6月30日

## 「夢をあきらめない」

通常登校が始まって1か月が過ぎました。新しい生活スタイルに子どもたちも職員もようやく慣れてきました。これからも安全・安心を最優先したうえで、“豊かなつながり”を大切にしたい教育活動もできる限り工夫して行っていきたいと考えていますので、よろしくお祈りします。

新しい生活スタイルの1つであるマスク着用は、新型コロナウイルス感染防止のためには不可欠ですが、一方でマスク着用による熱中症が心配になってきます。状況を見ながら、活動ごとに臨機応変に対応する必要性を感じます。

マスク着用で気になることは熱中症以外にもあります。子どもたちの表情が確認しにくいということです。悩みごとや困ったことがあると、子どもたちの表情にサインが現れます。それをいち早くキャッチして対応することが大切なのですが、マスク越しなので難しくなっています。

また、耳が不自由な人の中には、話し手の唇や顔面筋肉の動きから言葉を理解する“読唇”でコミュニケーションをとる方も少なからずおられます。その方たちにとって、今の状況は大変厳しいものになります。今後は新しい生活スタイルの課題にも向き合いながら、そのときのベストを模索していく必要があるように思います。

耳の不自由な人のことをとりあげたところで、話はがらりと変わりますが、私が望海中学校の先生だった頃に受け持った生徒で、とても印象深いAさんのお話をします。

Aさんは2歳のときに原因不明のまま高度感音性難聴になり、両耳の聴覚を失いました。特別支援学校へ進学するという選択肢もあったのですが、Aさんは小中学校の通常学級への入学を判断し、そのために“読唇”を身につけました。とはいえ“読唇”で通常学級の様々な活動に対応するのは並大抵のことではなかったと思います。ついうっかり黒板の方を向いて説明してしまい、慌てて振り向いたとき、Aさんはいつも悲しそうな表情でこちらを見つめていました。その度に申し訳ない気持ちでいっぱいになったことを覚えています。

Aさんは中学3年生のときに、進路の目標を『医師になること』に決めました。理由は自分の障害の原因を研究したいということでした。当時、進路担当をしていた私はアドバイスに困りました。医師法には欠格条項というものがあり、それに該当していたら、どんなに成績優秀で国家試験に合格できても免許はもらえません。その欠格条項に当時は「聴覚障害」があったのです。

聡明な彼女が欠格条項のことを知らなかったとは思えません。それでも彼女は『医師』を目指すべく普通高校へ進学し、猛勉強を重ねます。そして…、

2001年の医師法改正で、欠格条項から「聴覚障害」が撤廃されました。時を同じくして彼女は見事、念願の医学部合格を果たしました。その後は医学用語の聞き取りに苦しみながらも、周囲の人たちの温かい支援もあって専門課程を修了し、2008年医師国家試験に合格しました。

現在は人工内耳の手術も受け、耳鼻咽喉科の医師として活躍しています。

夢をあきらめず、それに向かってひたむきに努力し、夢をつかみ取ったAさんのことを尊敬し、誇りに思います。また、欠格条項の見直しのように、これからも障害のある人にとってのバリアを取り除かれ、誰もが分け隔てられることなく、当たり前のように生活できるインクルーシブ社会が推進されることを強く願います。

(校長 桑原 渉)

## 7・8月行事予定

日	曜	週	行事予定	日	曜	週	行事予定
7/1	水	A	視力検査(6年) クラブ活動 SC来校	17	金		聴力検査(3年)
2	木		視力検査(5年)	20	月	B	聴力検査(2年)
3	金		視力検査(4年)	21	火		聴力検査(1年) ALT来校 心のふれあい日
6	月	B	視力検査(3年)	22	水		代表委員会
7	火		視力検査(2年) ALT来校 心のふれあい日	28	火	A	ALT来校 心のふれあい日
8	水		委員会活動	31	金		給食終了日
9	木		色覚検査(4年希望者のみ)	8/3	月	B	個人懇談会 12:20下校
10	金		視力検査(1年)	4	火		個人懇談会 ALT来校
14	火	A	ALT来校 心のふれあい日	5	水		個人懇談会
15	水		聴力検査(5年) 花園集会 SC来校 子ども安全の日	6	木		個人懇談会
16	木		聴力検査(4年) ALT来校	7	金		1学期終業式

8月後半の主な予定 8日(土)～16日(日) 夏季休業日  
13日(木)～15日(土) 学校閉庁日  
17日(月) 2学期始業式  
21日(金) 給食開始



### 「気持ちのいいあいさつ」

わたしは、ここ最近あいさつを積極的にするようにしています。なぜ最近あいさつを積極的にしているかというと、先生が、

「みなさん、このごろあいさつをきちんとできていますか？なんとなくやっていませんか？」とお話をしてくださったからです。そこでわたしは「ドキッ」としました。なぜなら、なんとなくあいさつをしたり、返したりしていたからです。その後わたしは、相手に気持ちのいい思いをしてもらえるように、気持ちをこめてあいさつをしています。

金曜日の朝、沖さんに「はなちゃん、おはよう。」とわたしがあいさつをすると、「おはよう。」とあいさつを返してくれたので、気分がとてもよくなりました。でも、教室に入るとき、あいさつをしても返ってこないときもあります。わたしは、このようなことを当たり前にしたくないです。だから、みんなに積極的にあいさつをしたり、返したりして、もっとあいさつのあふれるクラスにしていきたいです。

(5年1組 OO OO)

### 「心を温かくするあいさつ」

あいさつとは、人の心を温かくするまほうの言葉だと思います。

朝のあいさつ運動をしているときに、笑顔であいさつをされると自分も自然と笑顔になり気持ちがいいです。逆にあいさつをしたのに暗い表情で小声で返されると、自分もなんとなく落ち込んでしまいます。

あいさつとは「こころを開いて歩みよる」という意味があると教えてもらったことがあります。「こんにちは」や「ありがとう」など、あいさつは短い言葉でたくさんの種類があり、わたしたちは何気なく使っています。たった一言でもおたがいに心をこめてあいさつをすると気持ちが伝わって心の距離がちぢまると思います。だからあいさつ運動をするときに思いやりの気持ちをもって、一人の心を少しでも温かくするあいさつをするように、がんばりたいです。

学校全体が笑顔であふれ、気持ちのよいあいさつが飛び交うような学校にしたいと思います。

(5年2組 OO OO)